



iDeCo を申し込む前に知っておきたいこと

N03

社会保険労務士 1級 DC プランナー(企業年金総合プランナー) 石渡 和巳

運営管理機関選択に悩んでいる方へ

イデコを始めるには、必ず運営管理機関(金融機関)を決める必要があります。選択できる金融機関は 1 つだけなので自分にあった金融機関を決める必要があります。ちなみに企業型確定拠出年金をされている会社を退社された方が転職先に確定拠出年金がないのでイデコに資産を移すというケースが多くありますが、企業型を実施していた金融機関と同一でなくても問題はなく自由に選択できます。

それでは選択ポイントを下記にまとめます。

1・手数料が安いのか？

イデコにかかる手数料は

- ① 加入時手数料 : 2,829 円 (初回のみ)
- ② 収納時手数料 : 105 円 (毎月)
- ③ 口座管理手数料 : 66 円 (毎月)
- ④ 運管手数料 : 金融機関毎に設定 (毎月)

上記①②③はどの金融機関を選択しても共通で④が金融機関によって異なってきます。よく運管手数料 0 円ですとアピールしている金融機関がありますが①②③については必ず負担が必要なので全く 0 円というわけではないのでご注意ください。

金融機関毎の手数は iDeCo 公式サイトでの運営管理機関一覧から金融機関毎個別に確認することができますし、「イデコ 比較 手数料」等の言葉でネット検索をすると金融機関毎の手数を比較しているサイトがありますのでそこでどの金融機関が安いのか確認する方法もあります。

<https://www.ideco->

[koushiki.jp/operations/](https://www.ideco-koushiki.jp/operations/)

(国民年金基金連合会イデコ公式サイト: 運営管理機関一覧)

2・店頭での対応を行っているのか？

イデコは複雑な制度なので不明点が多いため質問しやすいサポート体制が整っているかも大事になってきます。よくお客様のお問合せの中で、「質問があるので窓口に行きたいのですが」と言われることがあります。イデコの相談について窓口対応していない金融機関が多くあります。

前述のイデコ公式サイトでの運営管理機関一覧より金融機関毎に店頭対応の可否が掲載されておりますので参考にして頂ければと思います。

併せてコールセンターの営業時間が平日の夜や土日対応しているかウェブサイトの情報がわかりやすく説明されているのかも比較検討してみるのもよいでしょう。

3・運用商品のラインナップは？

金融機関毎に取り扱っている商品が違うため、商品のラインナップも確認する必要があります。

例えば元本確保型商品として「定期預金」がありますが、銀行系以外の金融機関だと取り扱っていない場合があります。同じように「利率保障型積立生命保険」は銀行系の金融機関では取り扱っていない場合が多いです。

自分の運用スタイルにあった商品があるかを前術のイデコ公式サイトでの運営管理機関一覧の金融機関毎の情報より確認して検討してみましょう。

4・その他

上記 1・2・3 を経て候補の金融機関が見つかったらコールセンターか直接店頭へ加入書類の請求をしましょう。その時不明点があれば質問をしてその対応から安心してお任せできる金融機関か判断するのもよいかと思えます。